

小学校第6学年 道徳学習指導案

平成 27 年 12 月 9 日（水）第 5 校時

児童数

授業者

1 主題名 たがいに^{しんらい}信頼し、学び合って 友情、信頼

2 ねらいと教材

(1) ねらい

友達の気持ちを理解し、互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする心情を育てる。

自分の思いや考えを、場に応じた態度で適切に伝えることができる。

(人間関係形成・社会形成能力)

(2) 教材名

「知らない間の出来事」(出典：わたしたちの道徳 小学校 5・6 年 文部科学省)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。しかし高学年になると多くの新しい情報に敏感になり、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団をつくる傾向も生まれる。そのため、心地よい居場所づくりや友達との距離の取り方で思い悩むことが考えられる。そこで、友達同士の信頼のもとに、違いを認めたり許し合ったりする経験を通して、互いに高め合えるような真の友情を築いていける心情を育てていきたい。

(2) 児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い（児童観）

6 年も後半をむかえた本学級の児童は、まだまだ仲の良い友達との関係に流されたり、利害による行動を優先する幼いところが見られる。しかし、運動会のダンスリーダーとして協力する経験や、陸上記録会で励まし合う体験を通して、少しずつではあるが、気持ちを伝えたり、互いのことを分かち合おうとして、信頼し合える関係を求め始めるようになってきた。

一方、本学級の「友達（友情）とは」というアンケート結果を見ると、過半数の児童が「友達と一緒に遊ぶ人」と答えたが、中には「友情とは信じ合うこと」と答えた児童が 4 名。「友達は共感し成長していく仲間」と答えた児童が 3 名いた。ただ楽しいだけの関係から、互いを高め合える大切な仲間と感じている児童がいることが分かった。近い将来、大規模校の友達と一緒に中学校生活をおくる本学級の児童に、互いに信頼し合い、友情を深めていこうとする心情を育てることはとても重要であると考えた。

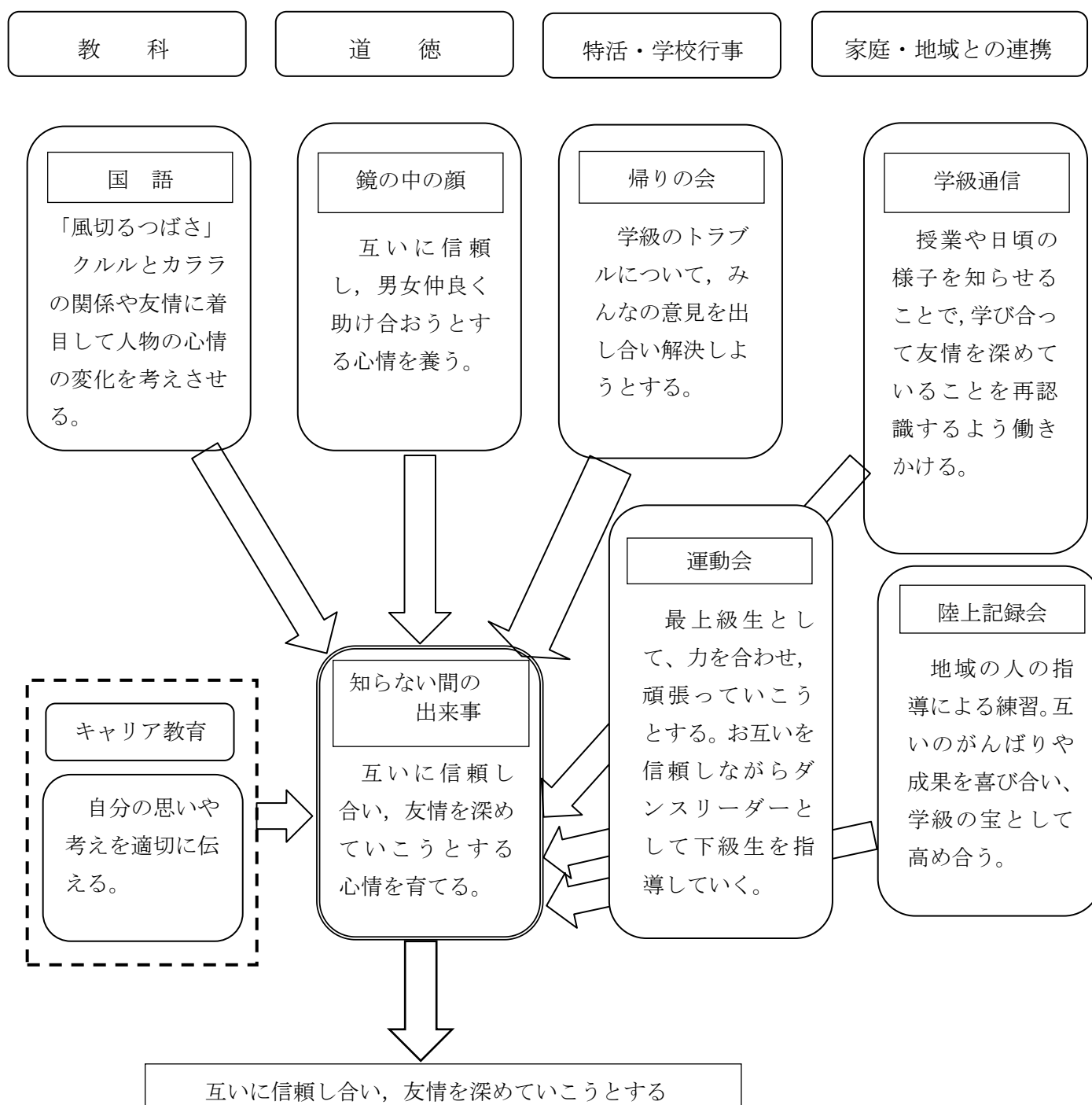
(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本資料「知らない間の出来事」は二人の回想で記されている。みかは、共通の趣味をもっている転校生のあゆみと仲良くなりたくて声をかけるが、携帯電話を持っていないことを知り残念に思う。そして、軽率な推測メールをしてしまったために、あゆみを傷つけてしまうことになる。展開前段では、携帯がないから仲良くなれないみかの残念な気持ちに共感させた後、あゆみが勇気を出して自分の想いを言った真の気持ちに気づかせたい。そして中心発問では、電話をかけようとする時の

みかの気持ちを考えたい。「友達に求める条件」を考える活動では、少人数で自分の考えを伝え合うグループ活動を取り入れることにより、日頃発表が得意でない児童も話し合いに参加させ、共感的人間関係の育成を図りたい。また、グループで話したことをさらに全体に広げて考えることにより、友情・信頼へと迫っていきたい。展開後段では、友達との付き合い方について大切にしたいことを「私たちの道徳」に書きこみ、発表をして生活にふり返らせ、終末は P72 のメッセージを読み聞かせ、余韻をもって終わるようにしたい。尚、思考の時間を確保するために、資料の読みは事前に行うこととする。

キャリアの視点としては、集団の中で自己を生かせるようになるために、自分の思いや考えを、場に応じた態度で適切に伝えることを目指したい。

4 各教科・領域との関連



5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応 ◎中心発問 ◇補助発問	指導上の留意点
導 入	1. アンケート結果を確認する	○今日は、友達について考えていきます。	・意識づけを図る。
展 開	2. 資料について話し合う。 ・みかが携帯を持っていないと知った時。 ・あゆみが帰りの会で発言した時。 ・みかが電話をかけようとした時。	○あゆみが携帯電話を持っていないと知った時、みかは何を思っただろう。 ・携帯がないとおしゃべりができない。 ・友達になれると思ったのに残念。 ・がっかり。 ○あゆみは、どういう気持ちで発言したのだろう。 ・このクラスで仲良くやっていきたい。 ・誤解をされたくない。 ・仲間外れになるのはいやだ。 ◎電話番号が書かれた紙をきれいにもどしたみかは、どんな気持ちから電話をかけたのだろう。 ・推測で送ったメールであゆみを傷つけてしまった。謝らなくては。 ・許してもらって、友達になりたい。 ・携帯が無くても友達になれる。 ◇自分はどんな友達がほしいか。 友だちに求めたい条件とは何だろう。 ・信頼できる友達 ・違いを認めあえる友達 ・お互いを高め合える友達	・範読は、事前に行う。 ・あゆみが携帯を持っていないとがっかりしたみかの気持ちに共感させ、推測メールへとつなげる。 ・みんなと友情を深めたいという気持ちがあったからこそ発言したことに気づかせる。 ・軽率なメールによって、あゆみを傷つけたことを省みて、電話をかけたみかの思いを考える。 ・なぜそう思うのか。具体的に言うように促す。 【グループ→ホワイトボードに書いて発表→全体】 共感的人間関係 ☆自分の思いや考えを適切に伝える。
	3. 自分の生活を振り返る。	○友達との付き合い方で大切にしたいことを考える。	・わたしたちの道徳 P74 に書かせる。
終 末	4. P72 のメッセージを聞く。	○学び合い、高め合える友情を。	・余韻を残して終わる。

6. 板書計画

友情

信じる
公平に合う
はげまし合う
話を聞く

根も葉もないことを...
とても悲しいです。
勇気を出して言いました。

ごめいされたくない
仲間外れになりたくない
こうラスで仲良く
やそいさない

ありがとう
友達に
話したい

知らない間の出来事

あゆみ
友達になりたい

今度転校してきたあゆみさんは、前の学校で仲間外れになっていたの、この学校に転校してきたんだって。

残念
話ができない
ない
みた

携帯電話を
持っていないと知った時
かかり
残念
話ができない

みか
連絡ができない

「友達とは...？」

学年	友達の数
1年生	10人
2年生	12人
3年生	15人
4年生	18人
5年生	20人
6年生	22人
7年生	25人
8年生	28人
9年生	30人